

はじめに

本書を手にとってくださり、ありがとうございます。筆者が学部、大学院生時代に四苦八苦しながら作品を原文で読んでいた頃、こんな指南書があったらきっと嬉しかったろうな、というイメージで本書を書きました。結果として、英米文学を原文で読んでみたい、それも19～20世紀のホラー、もとい怪談・ゴシック小説を読んでみたいという方にピッタリの本ができあがりました。もちろん、英文学に触れてみたいと思っている方にも最適です。本書が取り上げる作家は、年代順にシェイクスピア（1564-1616 英）、メアリー・シェリー（1797-1851 英）、シェリダン・レ・ファニュ（1814-1873 英）、ブラム・ストーカー（1847-1912 英）、ラフカディオ・ハーン／小泉八雲（1850-1904 英）、ハワード・フィリップス・ラヴクラフト（1890-1937 米）です。これらの作家の代表作から原文の一部をそのまま抜き出し、それをじっくりと読んでもらう方針としました。

各作品はそれなりに長大な分量を誇る文学作品ですが、筆者が各作品を実際に読み、物語の勘どころを掴み、選りすぐりの箇所を選んでいきます。具体的には、各作品につき3箇所を選び（3章分、3部分、3場面分、あるいは3編分）、特定の作品世界の深みに徐々に踏み込んでいくように構成しています。英語原文に対して様々な読み方ができるよう、

〔1〕作家&作品紹介、〔2〕本文（原文テキスト）、〔3〕語彙（怪談単語トレーニング）、〔4〕スラッシュ・リーディング（読解トレーニング）、〔5〕精読の指南（英文の読解ガイド）、〔6〕作品を巡る補足解説（コラム）、と学習項目を設けています。語彙に関しては例文も豊富に設けていますので、皆さんが独自に英文学を読む際にも応用が利くはずです。願わくは本書をきっかけに、取り上げた作家、作品の翻訳書、あるいは原文を手に取り作品全体を読んでいただければ嬉しいです。そして、読者のみなさん一人ひとりが個人として掴んだ独自の読みどころと本書を比較していただき、自分なりの「英文学史」を組み立ててくださるのでしたら、これに勝る喜びはありません。